

大学受験の思い出



北海道大学医師会
天使病院

及川敬太

今わが家では、高三の長男が大学進学に向けて準備をしています。すると25年以上前になる自分の大学受験のころを思い出しました。僕は昭和42年の末生まれですが、前年の丙午（ひのえうま）である昭和41年に出産することを避ける風潮があったそうで、その結果昭和42年生まれは非常に多く、受験競争はし烈を極めると当時報道されていました。

（昭和61年）帯広柏葉高校3年の僕の成績は芳しくありませんでした。大学進学に対する目的もなく、何となく6歳上の兄が進んだ北大理Ⅰを受験しました。その年の共通一次試験は最後の1,000点満点の年でしたが、僕の自己採点の結果は670点…北大理Ⅰの合格ラインは760点。二次試験で逆転するだけの学力もなく、予想通り落ちました。

4月から札幌予備学院に進学しました。希望寮という予備校の寮に入りましたが、札幌に来られたことがうれしくて、勉強に身が入りませんでした。忘れないその年の12月24日、僕は札幌駅南側の「駅前若草」というパチンコ屋で大勝し、その余勢を駆って、その近傍に存在した「桂」というフリー雀荘に乗り込み、結局スッテンテンになって、雪の降る中トポトポ寮まで徒歩で帰りました。天罰だったのでしょうか。

（昭和62年）この年から共通一次試験は800点満点になり、国公立大の2校受験が可能となり、この年だけなぜか一次試験前に受験する大学を決めるという方式でした。その影響で北大理Ⅰは北大歯学部より難しくなるという現象が生じた年でした。共通一次の自己採点は615点（合格ラインは640点）で、現役と同じく無目的に北大理Ⅰを受験したのですが、やっぱり落ちました。

もう大学は諦めて働こうかな？と思いましたが、幸い札予備の特待生試験で授業料が年間9万円に減額になり、両親に2浪を許してもらって1浪生限定の希望寮から、予備校生なら誰でもOKの北桑寮に移りました。北桑寮は途中で予備校を辞めるやつ、予備校に1年間で3日間しか行かなかったやつなど居て、味のある環境でした。

予備校の新学期が始まる前の3月下旬は何か手掛かりをつかもうと、当時北2西12に存在した中央図書館に入り浸り、色々な本を読みふけりました。そんなある日、悪友に誘われて、朝から「サン若草」

というパチンコ店の開店に並ぶため、同店シャッター前に新聞紙を敷いて、忙しそうに職場に向かうであろう人たちをぼんやり眺めていました。すると「俺って社会の役に立たないお邪魔虫だな」「やっぱり人の役に立つ人間にならないと駄目だよな」という思いが急にわきあがり、悪友には「ごめん、悪いけど俺帰るわ、したっけ」と告げて、突然医学部進学という目的を決めると、猛烈に勉強をしました。

（昭和63年）再び共通一次受験後に大学を選ぶ方式に戻りました。初日の国語と物理で失敗し、合計680点、当時の北大医学部の合格ラインは720点なので足りません。すると同じ2浪でずっと医学部志望のM君に「一緒に札幌医大を受けようよ、二次試験の問題が難問ぞろいだから、浪人生には有利だし、挽回可能だよ」と誘われました。

A日程は旭川医大を受験しました。JTBの受験パックで予約したのですが、旭川プリンスホテルに到着すると、なんとホテルの手違いで部屋がありません。僕が途方に暮れていると、一部屋だけ空いていたスイートルームに案内されました。立派なダブルベッドに豪華なお風呂、しかし普段は4畳に満たない寮の部屋で生活している僕には落ち着かない空間でした。しかも肝心の勉強のための机が存在せず、やむを得ずメルヘンチックな鏡台で勉強をしました。翌日の試験はそれなりに手ごたえがあったのですが、M君とはことごとく答えが異なり、今回も駄目かな？とため息をつきました。

B日程は札幌医大の受験です。1科目目の英語の試験開始の合図があった直後、あまりに気合を入れすぎたのか、鼻血がタラッと流れてきました。焦りましたが、鼻にティッシュを詰めながら、そんな自分が可笑しくて、少し緊張が解けました。それまでの受験生活で最も手ごたえのあった試験でした。しかし試験が終わってから強い不安に襲われました。「僕は一度も大学に合格したことがない。大学は僕にとって合格できない存在なのではないか？」。一睡もできない日々が続きました。

そして合格発表当日。合格発表は札幌医大が先でした。朝早く桑園の寮から歩いて札幌医大に行きました。実は受けた大学の合格発表を直接見るのは初めてでした。校門前でぶらぶらしていたら、M君を含め予備校の知り合いが集まってきました。ついに発表の掲示板が現れました。

「八九番 及川敬太」…あったー！ ウォー！

初めて大学に合格できました。数日後、旭川医大合格も判明しました。受からない間は全然駄目なのに、受かる時はすべて受かるとは皮肉だな、と思いましたが、それが受験というものなのかもしれません。